

## FP 相談用 お悩み整理レポート

### ① あなたについて

- 年代：40 代
- 家族構成：子ども 2 人
- 就業状況：会社経営者・役員
- 家族全体の年間収入：1,500 万円以上 2,000 万円未満
- 家計状況：ある程度余裕があり、継続して貯蓄できている
- 主な資産：預貯金、株式・投資信託などの金融資産、自宅などの不動産
- 財産規模：5,000 万円以上 1 億円未満
- 今後の大きなライフイベント：住宅購入を予定

#### ヒアリングから見える傾向

子どもへの資産移転そのものを優先するのではなく、**まず自分たちの家計に十分な余裕を残したうえで、無理のない範囲で資産を渡したい**という考えが見られます。

また、単に財産を渡すのではなく、子ども自身が長期運用を経験し、将来自分で資産形成を続けられるようになることを重視しています。

---

### ② 今回相談しようと思ったストーリー

来年から始まる「こども NISA」の話を知った

↓

これを機会に、子どもへ少しずつ財産を移すことを考えた

↓

こども NISA を利用した場合の贈与税や、将来の相続税との関係が気になった

↓

一方で、これから住宅を購入する予定があり、住宅ローンの負担によっては資産移転を続けることが難しくなる可能性もある

↓

そこで、**住宅購入後の自分たちの生活に十分な余裕を残しながら、子どもへどの程度の資産を移せるのか整理したい**と考えるようになった

---

### ③ 最初に感じていた悩み

当初は、

「こども NISA を使って子どもへ資産を渡した場合、贈与税がどう扱われるのか」

という税金への関心を中心でした。

ヒアリングを進めると、それだけではなく、

「住宅購入後の家計に十分な余裕を残しながら、子どもの資産形成のためにどの程度の財産を渡せるのか」

という、家計・資産移転・税金を合わせた問題が中心にあることが見えてきました。

---

#### ④ 問題解決 STEP1~4

##### STEP1 | 問題の明確化

住宅購入後も自分たちの生活に十分な余裕を残しながら、2人の子どもに公平に、どの程度の資産を移していけるのかを明確にしたい。

その際には、こども NISA に関する贈与税だけでなく、将来の相続税まで含めて考えたい。

##### STEP2 | 現状把握

現在確認できている状況は以下のとおりです。

- 40代
- 子ども2人
- 会社経営者・役員
- 家族全体の年間収入は1,500万円以上2,000万円未満
- 現在はある程度家計に余裕があり、継続して貯蓄できている
- 主な財産は預貯金、株式・投資信託等、不動産
- 財産総額はおよそ5,000万円以上1億円未満
- 今後、住宅購入を予定している
- 子どもへの資産移転は数年間を想定
- 2人の子どもにはできるだけ同じように渡したい
- 住宅購入後も毎月5万円以上10万円未満を貯蓄できることが、一つの安心の目安
- 家計の余裕が少なくなる場合には、子どもへ渡す金額を減らしたい

##### STEP3 | 目標設定

次の事項をまとめて確認でき、自分たちの家計に十分な余裕を残しながら子どもへ渡せる金額を判断できる状態が目標です。

- 住宅購入後の家計収支
- 子どもへ毎年いくら渡しても家計に余裕が残るか
- こども NISA を利用した場合の贈与税の扱い
- 将来の相続税まで含めた税負担

また、子どもへ多額の財産を残すこと自体が目的ではなく、子ども自身が長期運用を経験し、自分で資産形成を続けられるための土台を作ることを目指しています。

##### STEP4 | 要因解析

現在と目標との間にある主な要因として、次の点が整理できます。

###### 住宅購入後の家計がまだ確定していない

住宅購入後の毎月の収支が分からないため、資産移転に回せる金額を判断しにくい状態です。

###### 自分たちに残す資産と子どもへ渡す資産のバランスが決まっていない

子どもの資産形成は支援したい一方、自分たちの生活の余裕を失ってまで渡すことは望んでいません。

###### 税金の論点が複数ある

こども NISA と贈与税だけでなく、将来の相続税まで含めて確認したいと考えています。

「渡しすぎ」を避けたい

子どもが自分で資産を築く必要がなくなるほど財産を渡すことには抵抗があり、単純に移転額を増やせばよいとは考えていません。

---

## ⑤ FP 相談分野

| FP 相談分野                 | 該当 |
|-------------------------|----|
| 金融資産運用設計                | ○  |
| 不動産運用設計                 |    |
| ライフプランニング・リタイアメントプランニング | ○  |
| リスクと保険                  |    |
| タックスプランニング              | ○  |
| 相続・事業承継設計               | ○  |

### 今回の中心分野

ライフプランニング・リタイアメントプランニング／タックスプランニング

### 関連する分野

金融資産運用設計／相続・事業承継設計

---

## ⑥ FP へ相談するときに伝えること

このレポートを FP へ見せ、まず STEP1～4 について認識が合っているか確認してもらおうと、本題から相談を始めやすくなります。

特に今回の場合は、**住宅購入後の家計収支と資産残高を把握したうえで、子どもへの資産移転と税金について整理したい**という点を伝え、相談の目的が分かりやすくなります。

---

## ⑦ MK からひとこと

最初は「こども NISA と贈与税」という比較的具体的な疑問でしたが、話を進めると、その背景には「子どもの資産形成を応援したい。でも、自分たちの生活を圧迫したり、子どもへ渡しすぎたりはしたくない」という考えがありました。

税金だけを見るのではなく、住宅購入後の家計も含めて考えたいというところまで整理できたのは、今回のヒアリングの大きなポイントだと思います。

このソフトを制作した MK は、「MK のリアルブログ」を運営する税理士・1 級 FP です。ブログでは、お金や税金の話だけでなく、AI を使ったソフト開発や、実際にいろいろなことへ挑戦した記録も発信しています。

[MK のリアルブログ](#)

---

## ⑧ 注意事項・免責

このレポートは、**お金に関する問題を整理すること**を目的としています。金融・税務・保険等について具体的な対策を提示するものではありません。

AI による整理のため、内容に誤認や不足が含まれる可能性があります。重要な判断については、FP・税理士等の適切な専門家へ確認してください。

また、相談料が無料であることだけで判断せず、そのサービスが誰から、何の対価として報酬を得ているのか確認することも大切です。